平成23年度に生ごみ処理機等購入費助成を受けた方に対するアンケート結果（24年度実施）

1 調査対象

平成23年度に購入助成を受け、生ごみ処理機等を購入した60人

- 電動生ごみ処理機は、生ごみを電気熱で乾燥させ、粉砕して減らしたり（乾燥式）、生ごみを電気で保温、かく拌しながら、微生物により分解し減らす方式（バイオ式）
- コンポストは、土の上に置き、常温で生ごみを微生物により分解し減らす方式
- 密閉式容器は、屋内に置き、嫌気性微生物により分解し、液肥と堆肥を取り出す方式

2 調査方法

郵送によるアンケート用紙の送付及び回収

3 回答数

60人（回答率100%）

- 電動生ごみ処理機購入費助成者16人中、16人から回答（回答率100%）
  （全員が乾燥式を購入）
- コンポスト購入費助成者37人中、37人から回答（回答率100%）
- 密閉式容器購入費助成者7人中、7人から回答（回答率100%）

4 調査項目

現在の使用の有無、堆肥化の成否、臭気・音、完成した堆肥の利用、虫の発生、機器の使用と日常生活の変化、購入後の感想、工夫した点や気のついたこと

5 結果概要

1）現在の使用の有無

- 電動生ごみ処理機は、16人中、88%にあたる14人が使用中である
- コンポストは、37人中、92%にあたる34人が使用中である
- 密閉式容器は、7人中、57%にあたる4人が使用中である
  使用していない人は3人（43%）であり、密閉式容器で使い方を間違えた人が多かった

2）堆肥化の成否

- コンポストは、37人中、89%にあたる33人が「うまくいった」と回答
  一方、11%にあたる4人が「うまくいかなかった」と回答しており、発酵促進剤を使わなかった、土を被せなかった、気温が低かった、との回答であった

- 密閉式容器は、7人中、57%にあたる4人が「うまくいった」と回答
  一方、43%にあたる3人が「うまくいかなかった」と回答しており、使い方を誤った、との回答であった
- 電動生ごみ処理機は設問なし

3) 電動生ごみ処理機での臭気・音

- 38%にあたる6人が「気になる」と回答
- 62%にあたる10人が「気にならない」と回答
- コンポスト・密閉式容器は設問なし

4) 電動生ごみ処理機での乾燥後の処理物の利用（複数回答）

- 13%にあたる2人が「土や落ち葉と一緒に寝かせ、堆肥完成後、家庭菜園やプランターなどに利用している」と回答
- 75%にあたる12人が「そのまま土に入れ、家庭菜園やプランターなどに利用している」と回答
- 13%にあたる2人が「人にあげている」と回答
- 6%にあたる1人が「燃やせるごみに出している」と回答
- コンポスト・密閉式容器は設問なし

5) 生ごみ処理機等を使用して、日常生活で変わったこと（複数回答）

ア 冷蔵庫を確認し、食料の買いすぎに注意するようになった

- 電動生ごみ処理機は、6%にあたる1人が「はい」と回答
- コンポストは、49%にあたる18人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、14%にあたる1人が「はい」と回答

イ 調理のとき、生ごみを多く出さないように気をつけるようになった

- 電動生ごみ処理機は、69%にあたる11人が「はい」と回答
- コンポストは、70%にあたる26人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、29%にあたる2人が「はい」と回答

ウ 食べ残しが出ないよう、食事の作りすぎに注意するようになった

- 電動生ごみ処理機は、31%にあたる5人が「はい」と回答
- コンポストは、57%にあたる21人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、14%にあたる1人が「はい」と回答

エ 食品以外でも、使い捨て商品や、不必要な安売り品などを買わないようになった

- 電動生ごみ処理機は、19%にあたる3人が「はい」と回答
- コンポストは、49%にあたる18人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、29%にあたる2人が「はい」と回答

オ ごみの発生・処理問題、リサイクルに興味を持ち、家族などで話す機会が増えた

- 電動生ごみ処理機は、25%にあたる4人が「はい」と回答
- コンポストは、62%にあたる23人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、71%にあたる5人が「はい」と回答

カ 今回の購入前から、上記のアからオまでのことを、1つ以上実践してきた

- 電動生ごみ処理機は、「はい」と回答した人はいなかった
- コンポストは、35%にあたる13人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、14%にあたる1人が「はい」と回答

6) 購入後の感想 (複数回答)

ア 使用方法がよくわからなかった

- 電動生ごみ処理機は、13%にあたる2人が「はい」と回答
- コンポストは、5%にあたる2人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、43%にあたる3人が「はい」と回答

イ 別のタイプも検討すべきだった

- 電動生ごみ処理機は、6%にあたる1人が「はい」と回答
- コンポストは、11%にあたる4人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、57%にあたる4人が「はい」と回答

ウ 容量の選定ミス (小さすぎた・大きすぎた)

- 電動生ごみ処理機は、13%にあたる2人が「はい」と回答
- コンポストは、19%にあたる7人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、29%にあたる2人が「はい」と回答

エ 満足している

- 電動生ごみ処理機は、56%にあたる9人が「はい」と回答
- コンポストは、68%にあたる25人が「はい」と回答
- 密閉式容器は、29%にあたる2人が「はい」と回答

7) 使用に当たって、工夫した点や気がついたこと (機種別)

電動生ごみ処理機

ア 機器の使い方に関する記述

- 生ごみの量を少なくし、数回分を機器に貯めて使用していたが、水分が中でこもり、処理に時間がかかった
- 内部の洗浄が面倒である
- 電気料金が気になる
- 深夜電力を使い、夜間使用している

イ 臭気に関する記述

- こげ臭い匂いが気になるので、屋外で使っていた

ウ その他の記述

- 排気が高温になるので設置位置が限定され、移動する手間がかかる
- 冬は、雪のため、処理物を「燃やせるごみ」に出さざるを得ない
- もともと屋内用だが、臭いが気になるので、屋外で使うと、雨や雪の日は使いにくいので、結果、使わなくなった
- 1台目が壊れて、2台目である

コンポスト

ア 現在、使っていない理由

- 毎日、生ごみと発酵促進剤を混ぜたが、堆肥になるより早くコンポストが一杯になって止めた
- 関東から越して来たが、気温が低く、思ったように堆肥にならなかったから
- 虫が発生したから
- 上手な使い方がわからない

イ 生ごみ堆肥化がうまくいかなかった理由

- 堆肥にならず、生ごみのままだったから
- 最初、消臭剤、発酵促進剤、土を被せたほうが良いことを知らなかった。販売店での説明が欲しかった
- 気温が低く、発酵促進剤に1万円以上かけたが、効果は無かったから
- ウジが湧き、妻が気味悪がったから

ウ 機器の使い方に関する記述

- 発酵促進剤を使って効果的に使用できた
- コンポストは3台使用し、発酵の状況に合わせて隣へと移す。こうするとかくはんを兼ねることになり、水分も蒸発しやすい
- 生ごみを入れた後、カラスなどに掘り返されないよう、木の板に石を載せた
- ネズミに荒らされたので、土を15cm位掘って設置し、コンポストの底には網を張り、回りに石を敷いた
- コンポスト設置の際、土にどの位まで埋めれば良いか迷った。他人のを見ると半分位が多かった
- キツネに荒らされないよう、コンポストを金網で囲った
- 土を深めに掘ってコンポストを設置すると、堆肥の量が増える
- 毎年、コンポストを置く場所を移動し、土を柔らかくしている
- 冬期間はコンポストが一杯になるので、燃やせるごみに出している。もう1台必要だ
- 近所が留守になる日中、コンポストのふたを開けて乾燥させている。完成堆肥になるまで時間がかかるので、4台のコンポストを使用中
- コンポストを2台購入したので、生ごみ堆肥化に便利だ
- 1台だと堆肥化が進んでいる段階でコンポストを移設しなければならず、カラスなどが畑を掘り起こすので、堆肥完成までの間は、もう1台あると良い
- 堆肥化のスピードを上げるため、週1回はスコップでコンポスト内を土と混ぜている
- 虫よけの殺虫剤よりも、発酵促進剤が本体に付いていると良い
- 雪融けから生ごみを投入し、一冬寝かせて、春になると完成堆肥に近くなった
- 生ごみを小さく切ってからコンポストに入れる
- 廃食用油を入れると温度が上がる
- 市販の微生物やミミズを入れると堆肥化しやすい
- 臭いがするので自宅から離すが、最も日当たりの良い所に置いて温度を上げ、発酵を早める
- ボカシ肥料を入れたり、もみがら・米糠を入れる
- 落ち葉も入れて肥料に役立てる
- ふたは、ごみが付着しやすいので、よく洗うようにしている

エ 虫の発生に関する記述

- 小虫が大量に発生し、非常に怖かった
- 殺虫剤をかけた
- かくはんをまめに行う
- 熱湯をかける
- 生ごみに草や土を被せると、虫は発生しにくい
- 生ごみを入れた後、枯れ草やおがくずを被せる
- ハーブの葉を入れたり、薄めた酢をスプレーする
- コンポストにすっぽりとビニール袋を被せた

- 生ごみを入れる都度、オルトランと殺虫剤、発酵促進剤をかけ、生ごみが貯まると土を2㎝から3㎝入れ、サンドイッチのように交互にはさむ
- 最初に石灰を入れる
- 虫よけや殺虫剤をコンポスト内部に付けた
- 野菜類のみを入れることにした
- 虫が発生しても、何もしないでおく

オ 日常生活の変化に関する記述

- 庭土が改良された
- コンポストを使ったら、生ごみを直接土に埋めるよりも、荒らされなくなった
- 道路の落ち葉を入れて発酵させている
- 生ごみは出来るだけコンポストで処理する、意識付けになった
- 自家栽培の野菜が美味しくなった
- 野菜が病気に強く育つようになった
- 今までごみとして捨てていたものを生かせる生活になった

カ その他の記述

- 発酵促進剤や防虫剤、防臭剤の購入にお金がかかった
- 固形式の生ごみ防臭剤を使用している
- コンポストの利用が広まることを望む
- 肥料と変わりなく良い作物が出来る。コンポストは素晴らしい
- 生ごみ処理機等購入費助成手続きを簡素にして欲しい
- 堆肥を下部から取り出せる方式が良いと思う。インテリアも工夫されているが、通販で売っている
- コンポスト堆肥化に成功した人を講師として、講座や意見交換会を開催して欲しい
- 冬期間は使用できない。電動生ごみ処理機が欲しいが高価である
- 落ち葉を集めて堆肥化したいので、もう1台欲しい

密閉式容器

ア 現在、使っていない理由

- 冬はコンポストや段ボール式で生ごみを堆肥化している
- 使い方がわからず、臭気が発生したから

イ 生ごみ堆肥化がうまくいかなかった理由

- 室内に置き場所を確保できなかったことと、臭いが気になり外に置いたことが失敗の原因

- 使い方を誤った

ウ 機器の使い方に関する記述

- 密閉式容器が一杯になった後の熟成具合がわからず、いつ畑に埋めたら良いか解らなかった
- 玄関に置いて使用しているが、ふたを開けたときの臭いが家族には不評だった

エ 虫の発生に関する記述

- 虫はほとんど発生しない
- 乾燥してから堆肥にすると虫は発生しない
- ふたの回りにウジが湧いた。たぶん、使い方を間違った

オ 日常生活の変化に関する記述

- 庭の落ち葉を堆肥にするようになった
- 肥料を購入する必要がなくなった

カ その他の記述

- コンポストのほうが簡単に使用継続できる
- 発酵促進剤の費用が負担である
- 家庭菜園があるので、落ち葉や枯れ草も以前からコンポストを使用してきた
- コンポストも使っている。生ごみに土を被せることを繰り返し、ときどき混ぜたり、置き場所を変えると虫は発生せず、いちばんコストがかからない。これからも環境と自分のために続ける
- 生ごみの処理方法の講習会などを定期的に行って欲しい。生ごみ処理機等購入費助成のピーアールが足りない

6 総括

1) 生ごみの減量について

購入者は、完成した堆肥を家庭菜園などに利用している方が多く、生ごみの減量につながっており、リサイクル意識の向上や日常生活が変化した、との記述もみられ、購入費助成の目的は達成されたものと判断される

2) アンケートから導き出される注意点

ア　電動生ごみ処理機

全員が乾燥式のタイプを購入しているため、回答も乾燥式に関する内容となっている。乾燥式以外としては、堆肥化まで可能なバイオ式のタイプもあるが、臭気を放つので、機種の選定や設置場所については、事前に、それぞれの特徴を考慮してください

イ　コンポスト

小動物に荒らされたり、虫の発生などへの対策や、臭気、発酵促進の工夫が多数寄せられていましたので、参考にしてください

ウ　密閉式容器

屋内設置ができ、求めやすい価格ですが、強い臭気の液肥と堆肥を取り出す方式であることを考慮し、使い方や利用方法に留意して使用してください

3) 購入・使用にあたって

ア　電動生ごみ処理機（乾燥式）

屋内用となっており屋外では使用できません。購入前に置き場所があるかを検討してください
水を切って乾かした生ごみを入れたり、深夜電力を活用すると、電気代が節約できます

イ　電動生ごみ処理機（バイオ式）

屋外設置型は、おおむねー5℃以下の場所では使えないので注意してください
乾燥式と比較すると電気代は安いです
培養基材（チップ）の購入が必要になります
コンポストと比較すると、処理能力が高く、手間がかからず、生ごみを短期間で熟成させることができます

ウ　コンポスト

購入前に、置く敷地を検討してください
購入後、土を掘って、コンポストを低く設置します
生ごみを入れたら、すぐ上から土をかけてください（場合により、発酵促進剤、防虫剤が必要）
肉や魚、魚のアラを多く入れると、臭くなります。野菜類のみだと、余り臭くなりません
骨や肉の脂身、とうもろこしの芯、殺虫剤をかけている果物の皮は、分解しません
処理物が熟成したときは、コンポストを外し、深く土をかけるか、石を置いた板を敷くなどし、その場所が小動物に掘り返されないようにしてから、設置場所を移動させます

エ　密閉式容器

屋外設置もでき、冬でも使用できます
中身を堆肥として利用できるだけでなく、底に溜まる液肥を希釈して植物に吹きかけるなどの

使用ができます。ただし、液肥は空気に触れると強い臭気が発生しますので注意してください
水を切った生ごみを入れ、ＥＭボカシをふりかけ、しゃもじ等で生ごみのすき間を詰めて、空気を押し出します

※いずれの機器も、使用にあたっては取扱説明書に書いてあることがらをよく守り、きちんと維持管理をしながら、ごみの減量化につなげてください

千歳市　市民環境部　環境センター　廃棄物対策課　資源循環推進係

066-0012 北海道千歳市美々758 番地 54.　電話 0123-23-2110.　FAX 0123-23-2492